学校番号	1301

令和８年度　地歴公民

教科	地理歴史	科目	地理総合	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	『高等学校　新地理総合』（帝国書籍）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・地図に親しむとともに、地図から情報を読み取れるように、地形図・地図ワーク・地理情報システム（GIS）を用いた作業などを実施する。
・社会的事象の地理的な見方や考え方を働かせられるようにする。
・調べ学習やグループワークなどを通じて、主体的に取り組めるようにする。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
世界の生活文化の多様性や防災、地域や地球的課題への取組について理解しようとし、地図や地理情報システム（GIS）を活用して調査や資料から地理に関する情報を適切かつ効果的に収集・整理しようとしている。
【思考力、判断力、表現力等】
地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置・分布・地域・人間と自然環境の相互依存関係などに着目して多面的・多角的に考察しようとしている。また、地理的課題の解決に向けて構想し、論理的に説明・議論しようとしている。
【学びに向かう力、人間性等】
地理に関わる課題を主体的に追究し、よりよい社会の実現に向けて解決しようとしている。また、多様な生活文化を尊重し、地球的課題に対する責任感や協働の重要性を理解して、持続可能な社会の形成に寄与しようとしている。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	さまざまな地図や地形図等を収集･比較し､有用な情報を適切に選択できる。 さまざまな規模の地理的な諸課題を抱える現状と今後重要となる取り組みを理解し、その知識を身につけている。	地図の種類とその利用について、緯度の違いによる人々の生活への影響など地理的に考察する視点や方法を身につけさせる。	現代世界に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究する。 社会的事象の解決について自ら学び、考える力を身につける。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
ステージ1	地図や地理情報システムで捉える現代世界	地図や地理情報システムと現代世界 ・方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結びつきなどを扱う。 ・日常生活の中で見られる様々な地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて扱う。 ・現代世界の様々な地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能について扱う。 ・日本の領土問題を具体的に取り上げ、国境や領土問題が国際関係、人々の生活に及ぼす影響を考察する。	a:地球儀や様々な図法の地図を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 世界地図においての世界観の変化やGPSやGISなど現代の地図のしくみと有用性を理解し、その知識を身につける。 日本の位置と領域、日本が抱える領土問題についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付いている。 b:時差のしくみや時差と日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 国家と領域、日本の領土問題について、地域性や歴史的背景、日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現している。 c:地上の現象と地球上の位置についての関心と課題意識を高め、それを意欲的に追及し、とらえようとしている。 さまざまな時代や現代の地図の読図、地理情報の地図化などの活動を通して、現代世界の地図に対する関心と課題意識を高め、それを意図的に追及し、とらえようとしている。 日本の位置と領域に対する関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追求し、とらえようとしている。	教科書・プリントによる学習への取り組み	・調べ学習によるレポート課題 ・グループワーク後のレポート課題	・授業での態度や取り組み ・グループワークの取り組み ・調べ学習に対する取り組み

ステージ2	国際理解と国際協力	生活文化の多様性と国際理解 ・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて扱う。 ・世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて扱う。 地球的課題と国際協力 ・世界各地で見られる地球的課題を基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力などについて扱う。 ・地球的課題を解決するには持続可能の社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力について取り扱う。	a:国家の領域とさまざまな国境について基本的な事がらを理解し、それらの知識を身につけている。 世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件とのかかわり方などを理解している。 世界各地で見られる地球的課題について、地球の結びつきや持続可能な社会づくりを理解している。 b:国家の領域や国境を表す地図や画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 世界各地で見られる地球的課題について、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し表現できている。 c:国家の領域と国境に対する関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追及し、とらえようとして、時事問題やニュースに自らアクセスし、考えることができて言う。	教科書・プリントによる学習への取り組み	・調べ学習によるレポート課題 ・グループワーク後のレポート課題	・授業での態度や取り組み ・グループワークの取り組み ・調べ学習に対する取り組み

ステージ3	持続可能な地域づくりと私たち	地球環境と防災 ・世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応とのかかわりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性を扱う。 ・ハザードマップや各種の地理情報を扱う。 生活圏の調査と地域の展望 ・生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探求する手法について扱う。	a:地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通や差異、持続可能な地域づくりについて理解する。 生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりについて理解する。 b:地域性を踏まえた防災について、課題点を明らかにし、その課題解決に求められる取り組みなど、多面的・多角的に考察、構想し、表現できる。 地域の成り立ちや、持続可能な地域づくりについて、多面的・多角的に考察、構想し、表現できる。 c:生徒の生活圏内のハザードマップから、生活圏内の防災について具体的に考え、その考えを行動に移すことができる。 持続可能な地域づくりについて学んだことを、生活圏内に反映させ、具体的に何をする必要があるのかを考え、行動することができる。	教科書・プリントによる学習への取り組み	・調べ学習によるレポート課題 ・グループワーク後のレポート課題	・授業での態度や取り組み ・グループワークの取り組み ・調べ学習に対する取り組み

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度